

カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネービス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2022年1月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 新型コロナウイルス発生数は高止まりしており、収束の兆しは見えていない。1月末時点でのワクチン完全接種率は国によって約25%から約62%とばらつきが大きい。
- 第71回OECS首脳会合が開催され、コロナ禍対策、気候変動対策、物と人の自由な移動等について協議。
- 平山大使がセントビンセント及びグレナダを訪問。セントビンセントでは火山噴火被害に対する緊急無償資金協力の事業現場を視察した他、ゴンザルベス・セントビンセント首相、ミッチェル・グレナダ首相等と会談した。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- （全般）OECS 6カ国における1月の新型コロナウイルス発生数及び死者数はそれぞれ約20,900人及び65人。1月末時点でのワクチン完全接種率は約25%（セントビンセント）から約62%（アンティグア・バーブーダ）とばらつきが大きい。オミクロン株については、1月の発生数は6人で、これまでの総数は76人。
- （3日付セントビンセント報道）ゴンザルベス首相が台湾の高雄市及び民間企業から10,000回分のコロナ簡易検査キットを受領した。
- （7日付セントルシア報道）アルゼンチン政府がOECSに対し、コロナ禍支援として42,000回分のアストラゼネカを寄贈した。
- （13日付OECS発表）ブラジルから5万錠の抗インフルエンザ薬タミフルの寄贈を受領した。
- （14日付セントキッツ紙報道）ハリス首相がスリニバサ・インド高等弁務官と会談し、コロナ禍におけるインドからの支援に謝意を述べ、両国の協力関係強化について話し合った。
- （21日付セントルシア報道）米南方部司令が65万米ドル相当の40床の野

戦病院と3車両を寄贈。

（２）その他内政

- （４日付アンティグア報道）起訴され相職を離職していたブラウン前教育相が、創造産業・革新相として復職することに関し、内閣に戻れることを嬉しく思うと述べた。
- （７日付セントルシア報道）ピエール首相の助言に基づき、チャールズ総督代理は、ヒレイヤー観光・投資・創造産業・文化・情報相を副首相に任命。
- （１３日付アンティグア報道）昨年ブラウン首相が提案した国内の不法移民に恩赦を与える事が閣議決定された。国民からは選挙対策との声が上がっている。

３．経済

- （３日付ドミニカ報道）チャールズ観光相が、本年よりロゼウ・フェリーターミナルを含む主要な開発の建設が開始されると述べた。
- （３日付セントビンセント報道）シンガポール警察と金融管理局が、セントビンセントで登記された民間会社が運営するオンライン取引に不正取引があったとして調査を開始した他、３人が逮捕された。
- （１１日付セントビンセント報道）ゴンザルベス財務相が２２年度予算を発表。１３億３千万東カリブドルの予算で、新たな税制措置は行わないと述べた。５千万東カリブドルを火山被害からの復興として計上。
- （１５日付セントキッツ報道）インドが１千万ドルの太陽光発電による再生可能エネルギー基金を提示した。インドはカリコム加盟国に対し１．５億ドルの再生可能エネルギー推進支援を約束している。
- （１７日付グレナダ報道）食料栄養審議会はＦＡＯと農業省の支援を受けて食料銀行の拡大を図り、１３０家族が裨益する予定。
- １７～２０日、平山大使はセントビンセント及びグレナダを訪問。セントビンセントでは火山噴火被害に対する緊急無償資金協力の事業現場を視察した他、ゴンザルベス・セントビンセント首相、ミッチェル・グレナダ首相等と会談した。
- （１９日付セントルシア報道）セントルシア政府が台湾と農業分野の協力を署名。５年計画で、果実、野菜の生産とサプライチェーンの効率化を図るもの。昨年までの３年計画（同国の食料輸入額の３割削減を図るもの）に続く第二期計画。
- （２２日付セントキッツ報道）ウィリアムス電力会社社長はバセーテル溪谷でレチラチェ太陽光発電所の建設を開始し、国内需要の１／３の電力供給を目標とすると述べた。起工式は、２０年１２月に実施済み。
- （２５日付セントビンセント報道）トランスペアレンシー・インターナショナルの汚職認識指標で、１８０か国中セントビンセント３６位、ドミニカ５５位、

セントルシア 42 位、グレナダ 52 位であった。カリブ地域ではバルバドスの 29 位が最も高い。

●（28 日付グレナダ報道）ミッチェル首相は、26 年までを対象期間とした国連複数国持続的開発フレームワークに署名した。

●（28 日付セントビンセント報道）フライデー野党議員は、ゴンザルベス財務相に対し、地熱発電のための調査は 19 年に失敗に終わったと認め、残り 44.5 万東カリブドルは別目的として漁船購入に当てると述べた。

4. 外交

●（2 日付セントルシア報道）12 月 9 日、在台北大使館がセントルシア産ラム酒の試飲会を主催。台湾企業から 50 人が参加し、大きな注目を集めた。

●（3 日付アンティグア報道）アンティグア・バーブーダ中国友好協会（ACFA）が、22 年北京冬季オリンピック絵画コンクールの入賞者授賞式を開催した。

●（17 日付アンティグア報道）アンティグアの国連総会における投票権が分担金未払いにより一時停止措置とされた。

●（25 日付OECS報道）第7回OECS外相会合が開催され、バプティスト・セントルシア外相が議長を務め、コロナ禍対策、アフリカ・カリブ・太平洋諸国機構（OACPS）とEUとの間のコトヌー条約後継交渉、EUの税制関連ブラックリスト等について協議。

●（28 日付OECS報道）第71回OECS首脳会合が開催され、ミッチェル・グレナダ首相が議長を務め、コロナ禍対策、気候変動対策、物と人の自由な移動等について協議。

●（31 日付コートジボワール報道）セントビンセントとコートジボワールは外交関係を樹立した。